

平成28年(2016年)3月期 決算説明会

2016年5月26日

JASDAQ:3423

 株式会社 **エスイー**

目 次

- I. 平成28年3月期連結業績 および
平成29年3月期連結業績予想
- II. 平成28年3月期
エスイーグループ主要事業報告
平成29年3月期
エスイーグループ主要事業予測
- III. エスイーグループの今後の戦略

I. 平成28年3月期連結業績 および
平成29年3月期連結業績予想

損益計算書(連結)

(単位: 百万円)

	平成27年3月期	平成28年3月期	前期比	
売上高	19,606	19,490	△115	△0.6%
営業利益	692	512	△179	△26.0%
経常利益	672	548	△123	△18.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	349	358	8	2.4%

平成27年度 政府建設投資は、前年度比△8.6%と予測

- ・第一四半期に(株)森田工産を子会社化。その後、エスイー鉄建(株)と合併。
このM&A効果が売上・利益に寄与。
- ・建築用資材の製造販売事業において、受注が好調に推移したこと、中国からの鋼材
価格が下落したことが好業績に貢献。
- ・当社の関係する公共事業予算執行の遅れが、利益率の高い工場製品の売上減少に
繋がった。

セグメント別業績

(単位: 百万円)

	平成27年3月期		平成28年3月期		前期比	
	売上高	構成比	売上高	構成比		
	営業利益	利益率	営業利益	利益率		
建設用資機材の製造・販売	11,500	58.7%	10,262	52.7%	△1,238	△10.8%
	492	4.3%	193	1.9%	△299	△60.8%
建築用資材の製造・販売	5,903	30.1%	7,114	36.5%	1,211	20.5%
	367	6.2%	514	7.2%	147	40.1%
建設コンサルタント	716	3.7%	617	3.2%	△99	△13.9%
	△46	△6.4%	△82	△13.3%	△36	—
補修・補強工事	1,485	7.6%	1,496	7.7%	10	0.7%
	134	9.1%	156	10.5%	21	15.9%
合 計	19,606	100.0%	19,490	100.0%	△115	△0.6%
	692	3.5%	512	2.6%	△179	△26.0%

■各事業の売上高はセグメント間の内部取引を除き、また営業利益の合計では内部取引および全社費用、のれんの償却額を控除した上、端数調整した数字を記載しております。

■1Qに新たに㈱森田工産を子会社化し、当2Qには㈱森田工産とエスイー鉄建㈱の合併を実施しております。そのため、エスイー鉄建㈱における「鉄骨工事業」、「ビルトH型鋼」、「建築金物」、「建築耐震補強材」等の建築分野を「建築用資材の製造・販売事業」に含めて計上しており、前期比較につきましては、前期の数値を変更後のセグメント区分の内容に組み替えた数値で比較しております。

- 成長市場としての「補修・補強市場」への積極的な事業展開
- 海外(ベトナム)建設市場への積極的な取組(新規プロジェクト創出と具体的推進)
- 新製品開発 超高強度合成繊維補強コンクリート「ESCON」の販売開始・製品ラインナップの拡充
- PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ=公民連携)への積極的な取り組み
- 業際分野を中心としたM&Aによる事業展開、経営基盤の強化(建築分野への事業拡大)
- 既存事業の安定成長のための技術・製品・工法の更なる改良・開発
- 新規事業のための新技術・新材料・新工法の研究開発
- 東日本大震災からの復興に呼応するグループの事業展開

平成29年3月期 業績予想(連結)

(単位:百万円)

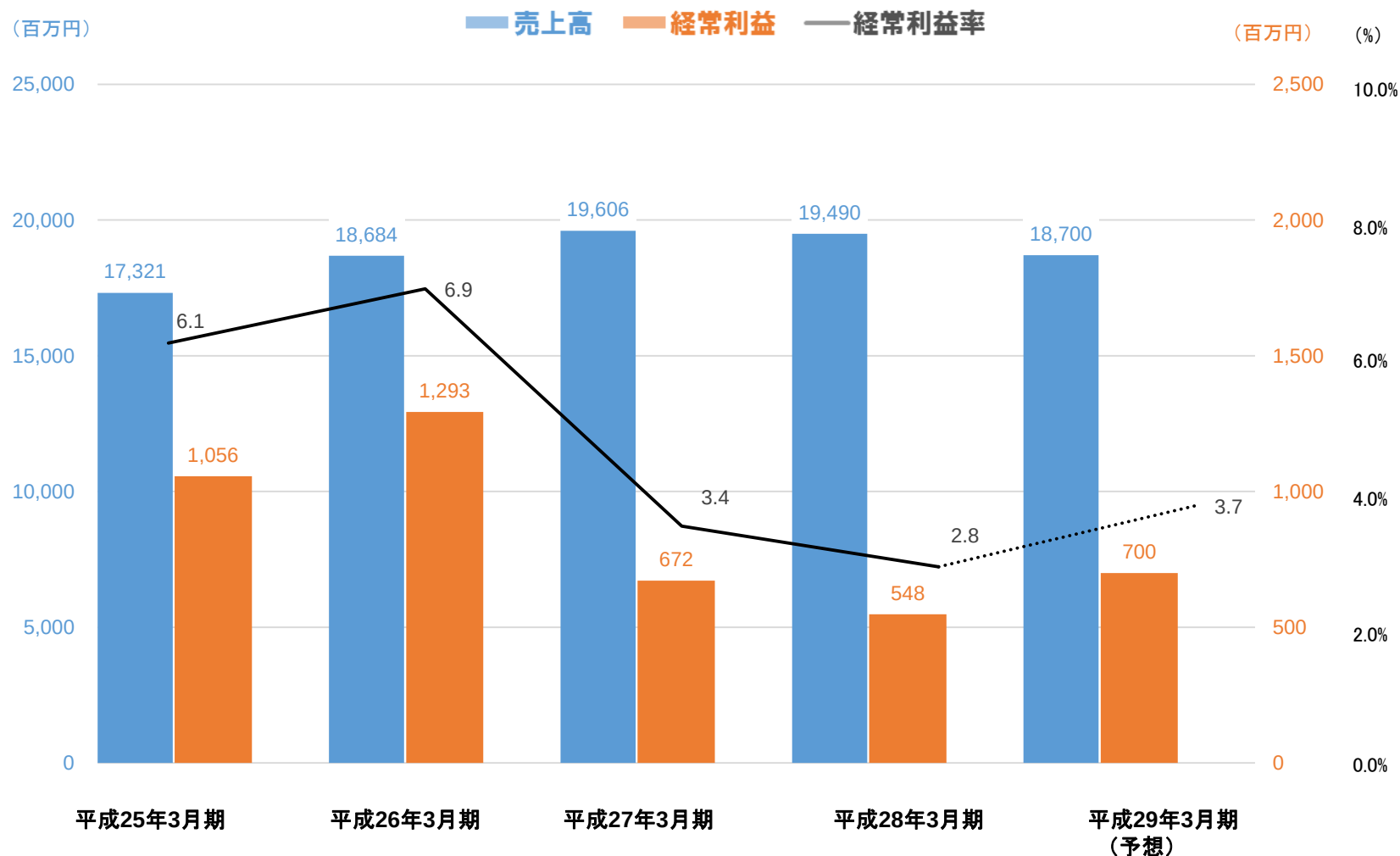
	平成28年3月期	平成29年3月期 (予想)	前期比	
売上高	19,490	18,700	△790	△4.1%
営業利益	512	689	176	34.4%
経常利益	548	700	151	27.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	358	340	△18	△5.1%

平成29年3月期 期末配当金 1株当たり 20円 (予定)

【ご参考: 1株当たり当期純利益・配当金及び配当性向の推移(連結)】

	平成27年3月期	平成28年3月期	平成29年3月期 (予想)
1株当たり当期純利益(円)	23.39	23.95	22.74
1株当たり配当金(円)	22	20	20
配当性向(%)	94.1	83.5	88.0

売上高・経常利益推移





II. 平成28年3月期 エスイーグループ主要事業報告

平成29年3月期
エスイーグループ主要事業予測

●M&Aによるグループ企業の推移

平成21年4月	朝日興業株式会社（現・エスイーA&K株式会社）の株式取得 （子会社化）
平成22年1月	株式会社キョウエイ（現・エスイーA&K株式会社）の株式取得 （子会社化）
平成24年5月	株式会社仲田建設（現・エスイーリペア株式会社）の株式取得 （子会社化）
平成26年4月	鉄建工業株式会社（現・エスイー鉄建株式会社）の株式取得 （子会社化）
平成27年4月	株式会社森田工産（現・エスイー鉄建株式会社）の株式取得 （子会社化）
平成27年12月	株式会社中川鉄工所の株式取得 （子会社化）

エスイーグループ セグメント別売上高・構成比

補修・補強工事業

14億96百万円

構成比 7.7%

建設用資機材の 製造・販売

102億62百万円

構成比 52.7%

建設コンサルタント

6億17百万円

構成比 3.2%

グループ
合計
194億90百万円

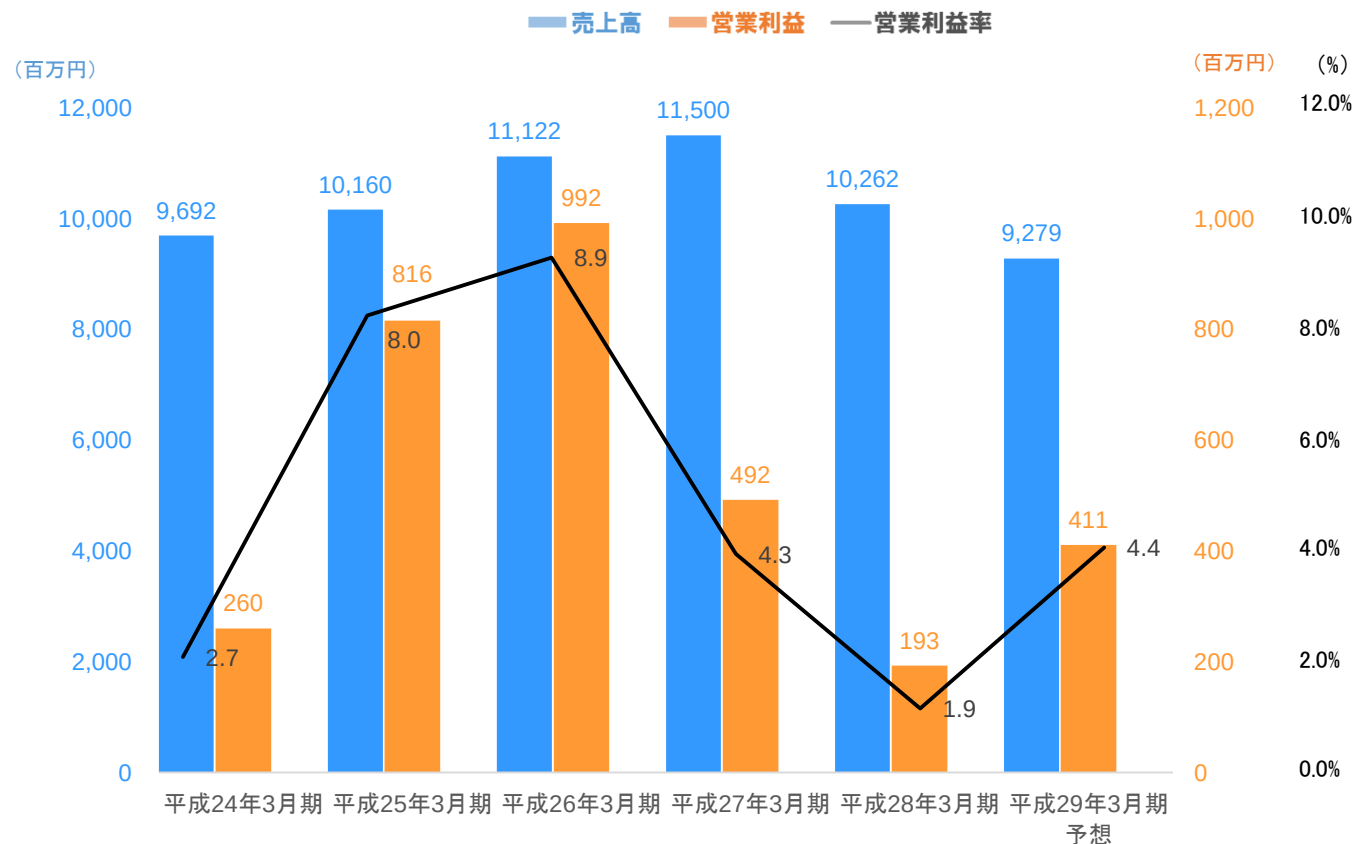
平成28年3月期
実績

建築用資材の 製造・販売

71億14百万円

構成比 36.5%

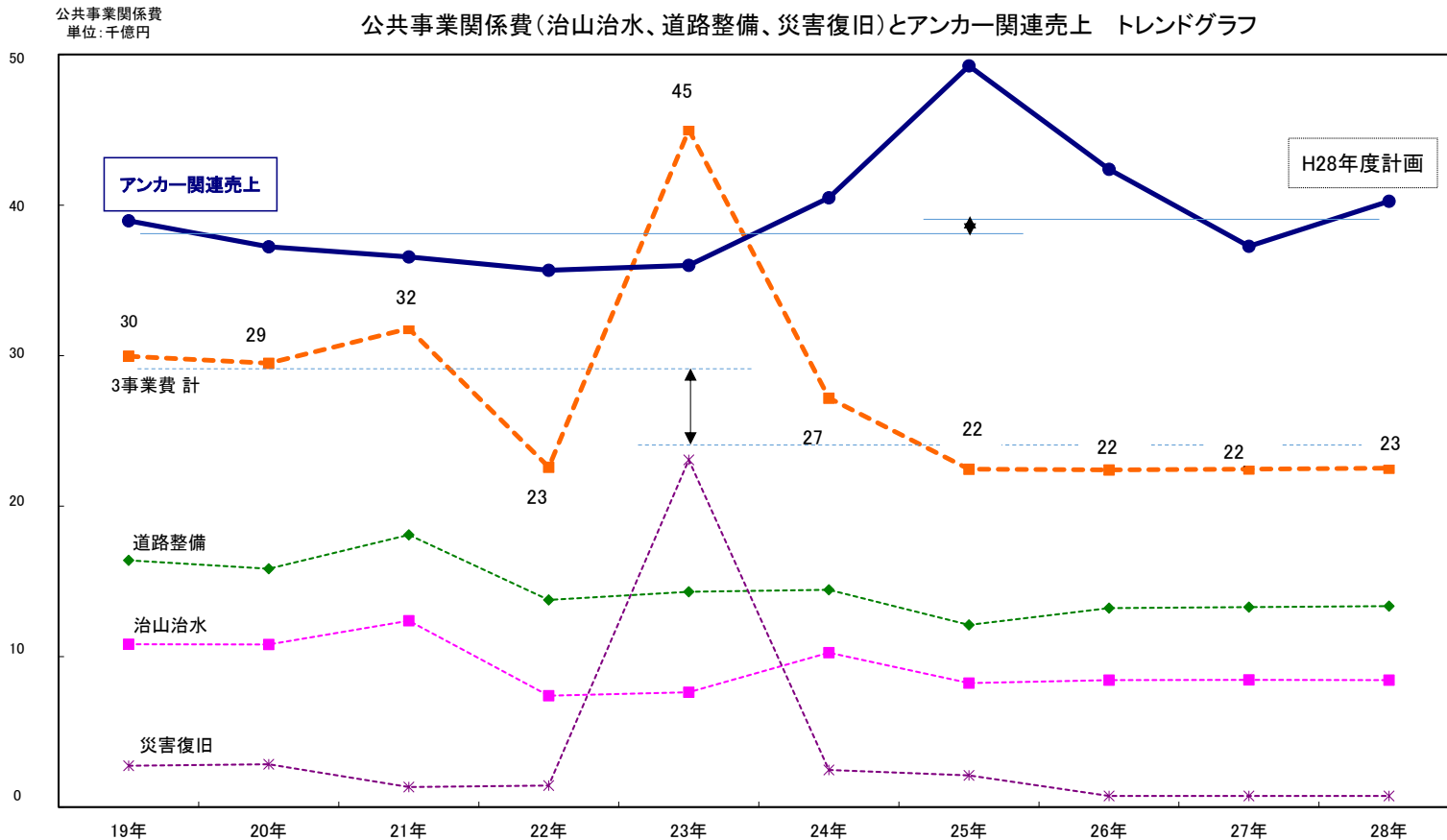
建設用資機材の製造・販売事業 (エスイー、エスイー鉄建、中川鉄工所)



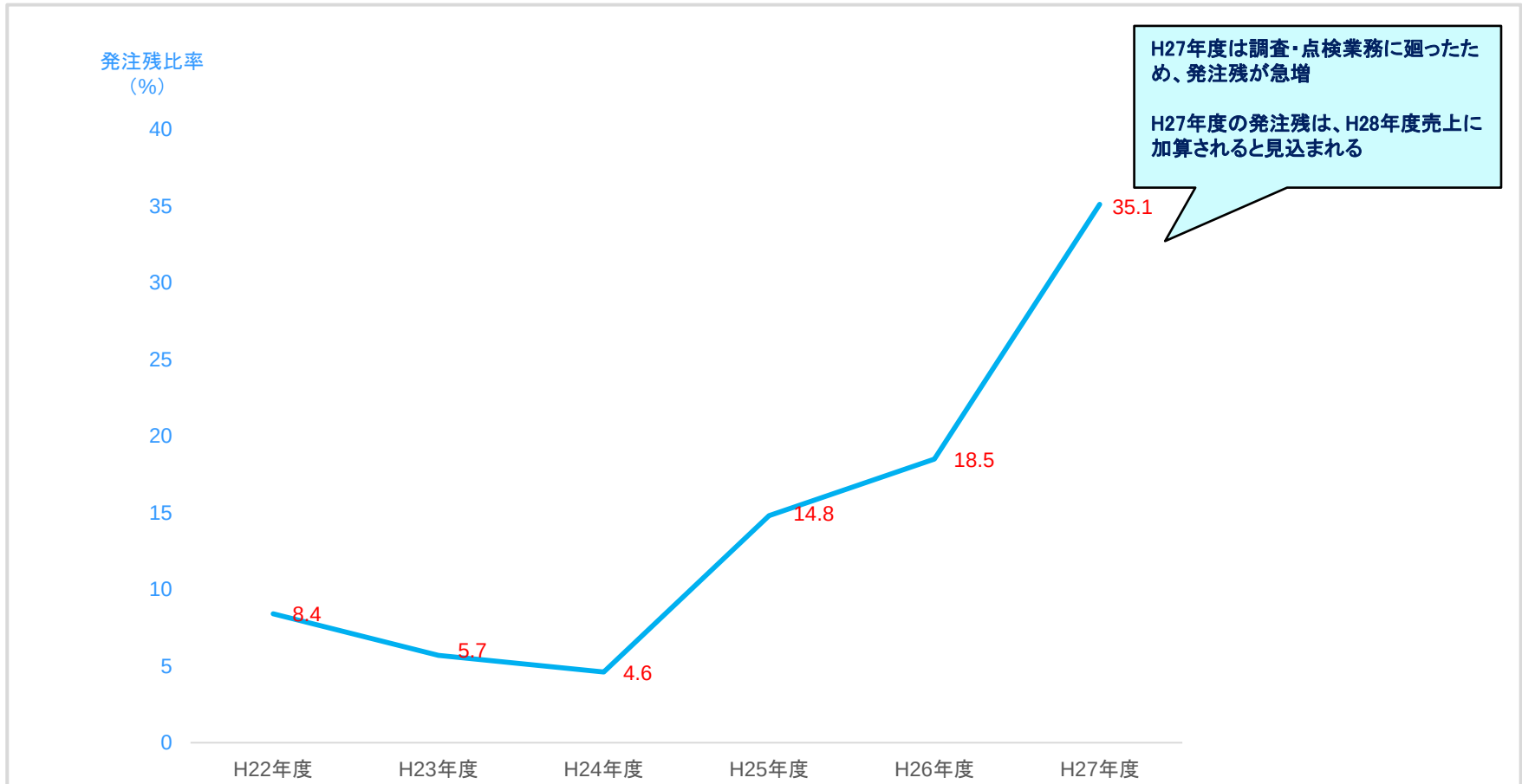
平成26年度補正予算がほとんど無く、橋梁保全事業等 公共事業の 予算執行が遅れたため、低調に推移

- ・災害関連、斜材等の大型案件が端境期を迎え、工場稼働率が低下
- ・成長分野への研究開発投資を継続 ⇒ 販売管理費増加
- ・エスイー鉄建の売上・利益が好調に推移。エスイーとのシナジー効果が軌道に乗る。
- ・アンカー工法が一般社団法人漁港漁場新技術研究会の確認審査・評価を取得

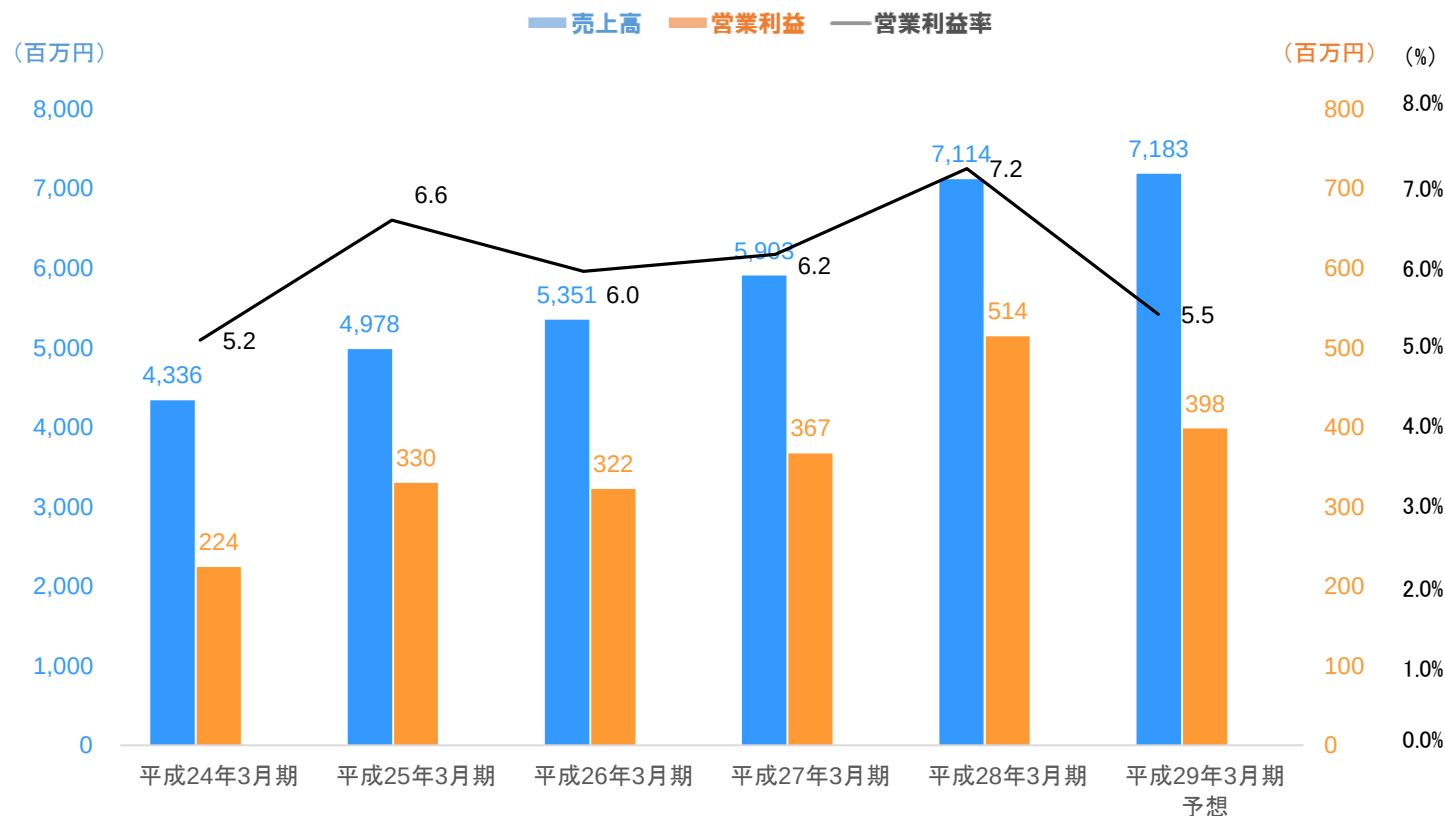
公共事業関係費とアンカー関連売上の相関関係 SEC 株式会社 エスイー



～ 設計折込分の発注残比率の動向～
(前年度折込分と実績の差額が翌年度の売上になる)

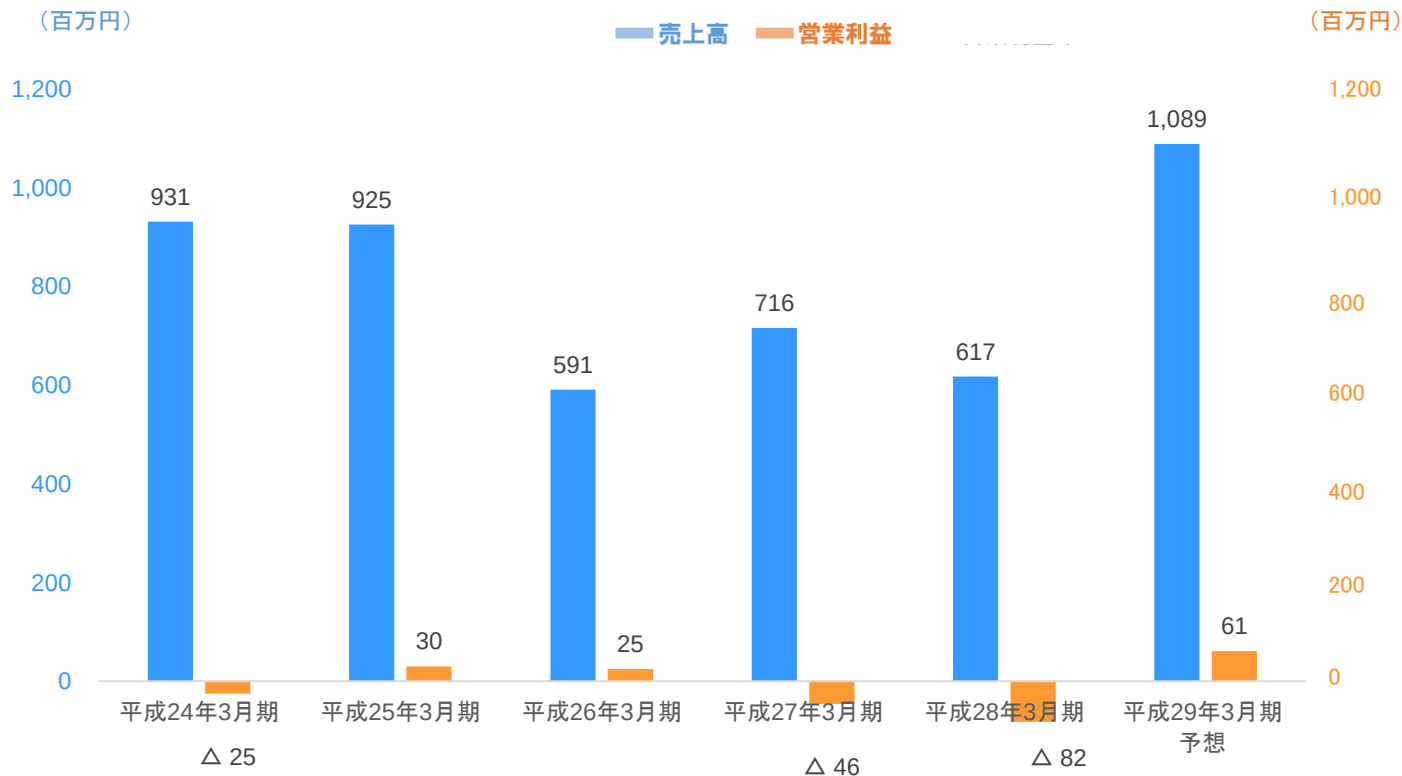


建築用資材の製造・販売事業 (エスイーA&K、エスイー鉄建、中川鉄工所)



首都圏市場において資材販売が順調に推移 エスイー鉄建(鉄骨工事等)の好業績が貢献

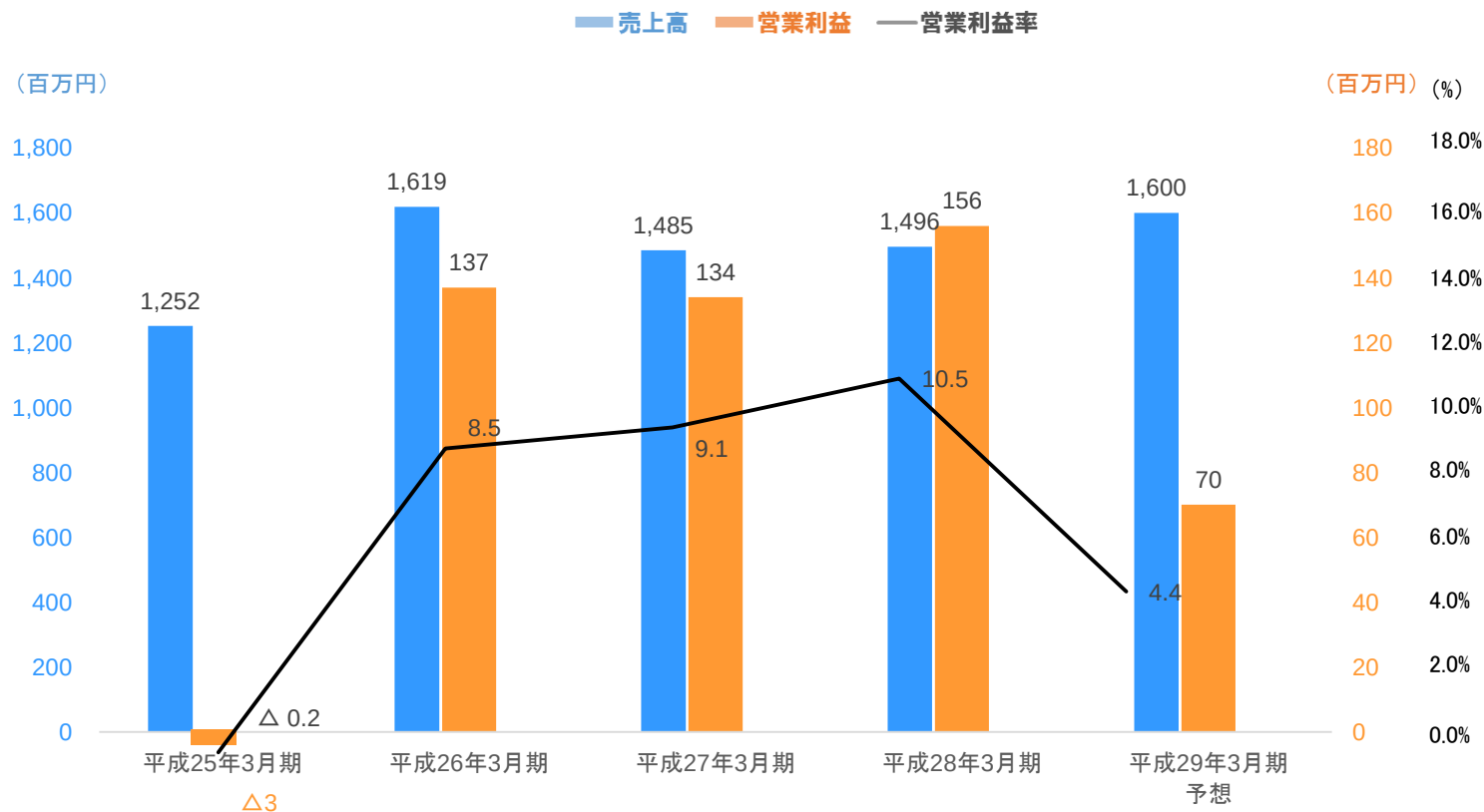
- ・製造原価低減努力が実を結ぶ(中国からの鋼材価格低下も好影響)
- ・エスイーA&K 建築資材における「地元代理店」的な役割で東北地区での存在感を増す
- ・エスイー鉄建の建築分野(建築金物、建築耐震補強材)の売上が順調



発注遅れていた詳細設計、施工監理に見通し 受注物件の確保に注力(受注金額は計画値越え)

- ・医療廃棄物処理分野(ケニア共和国)で、PPP手法による新たな事業化に成功
- ・仏アンジェロセック社との協力により、世界銀行、アジア開発銀行案件の受注
- ・技術力/提案能力/事業推進の向上から、受注拡大、新規分野への展開

補修・補強工事業 (エスイーリペア、ランドプラン)



「国土強靱化」政策およびインフラ老朽化対策に沿った 補修・補強工事を推進中

- ・労務/資材単価の上昇、新規参入業者の急増から、厳しい競争環境で推移
- ・自治体の抱える橋梁70万橋、トンネル1万箇所との5年ごとの点検が本格化
- ・提案による増工で一部工事で契約金額の見直し、工事利益率の改善に寄与

M&A実績: エスイーA&K株式会社

● 事業内容: 建築用資材の製造・販売事業

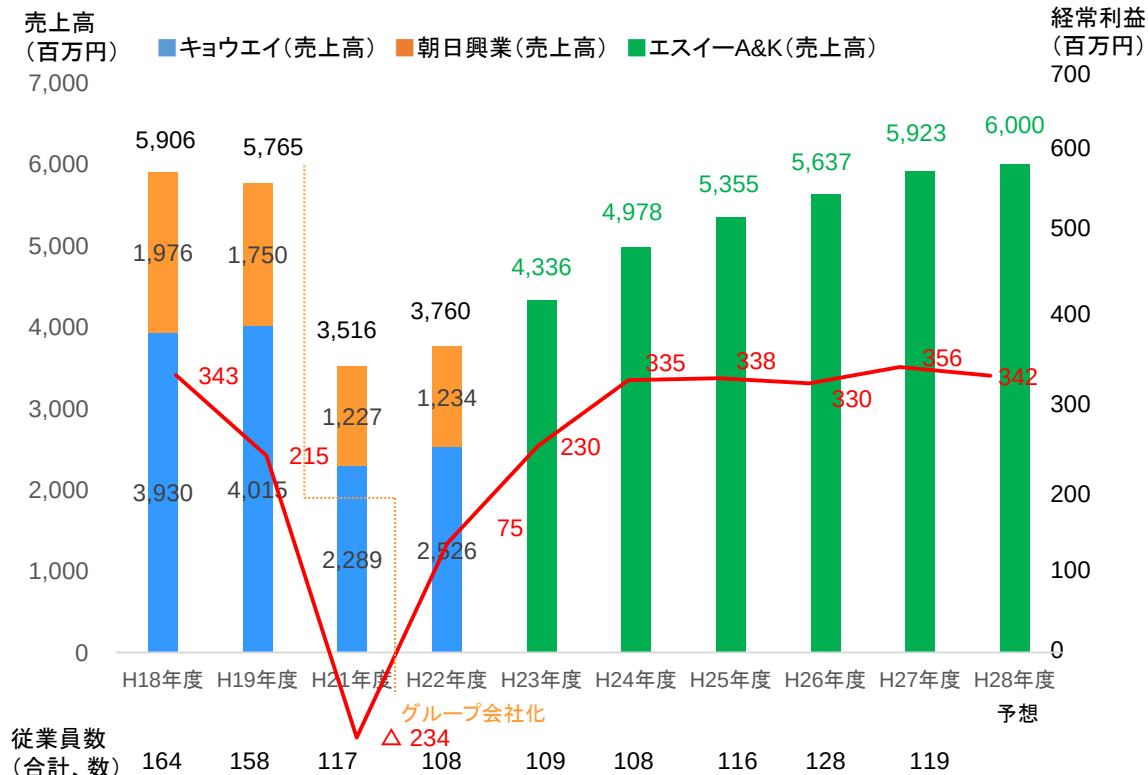
【仮設建材事業】

・コンクリートを流し込むための型枠(建物の土台部分)を仮設する際に使用する製品の製造・販売

【内装建材事業】

・コンクリートのビル等を使用される、軽量の天井下地を吊り下げるための吊りボルト・セットボルトやその他建材の製造・販売

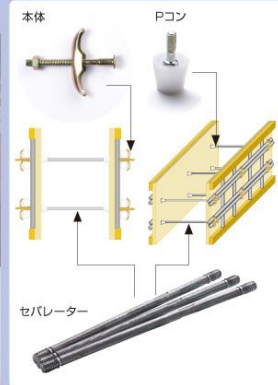
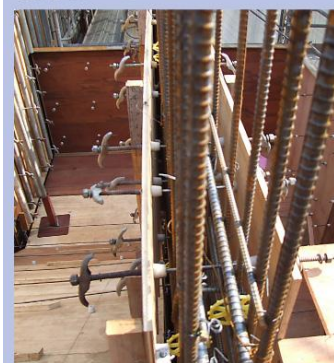
● 売上高・経常利益・従業員数推移



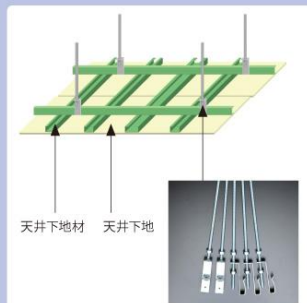
※H20年度においては、朝日興業が決算期変更に伴う4ヶ月決算につき、割愛しております。
役員においては、会長・社長を除き、継続雇用をしております。また、合併による人員整理はありません。

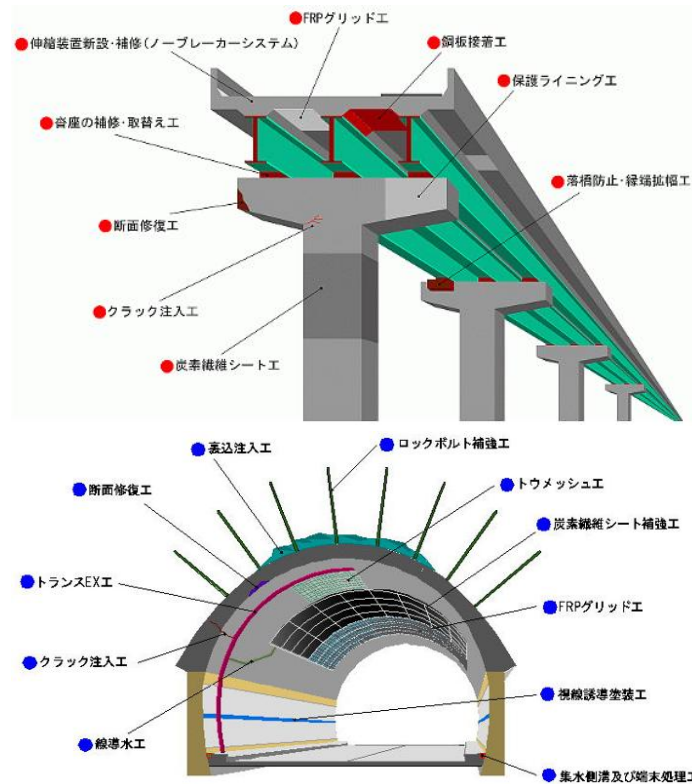
● 製品イメージ

使用イメージ



使用イメージ



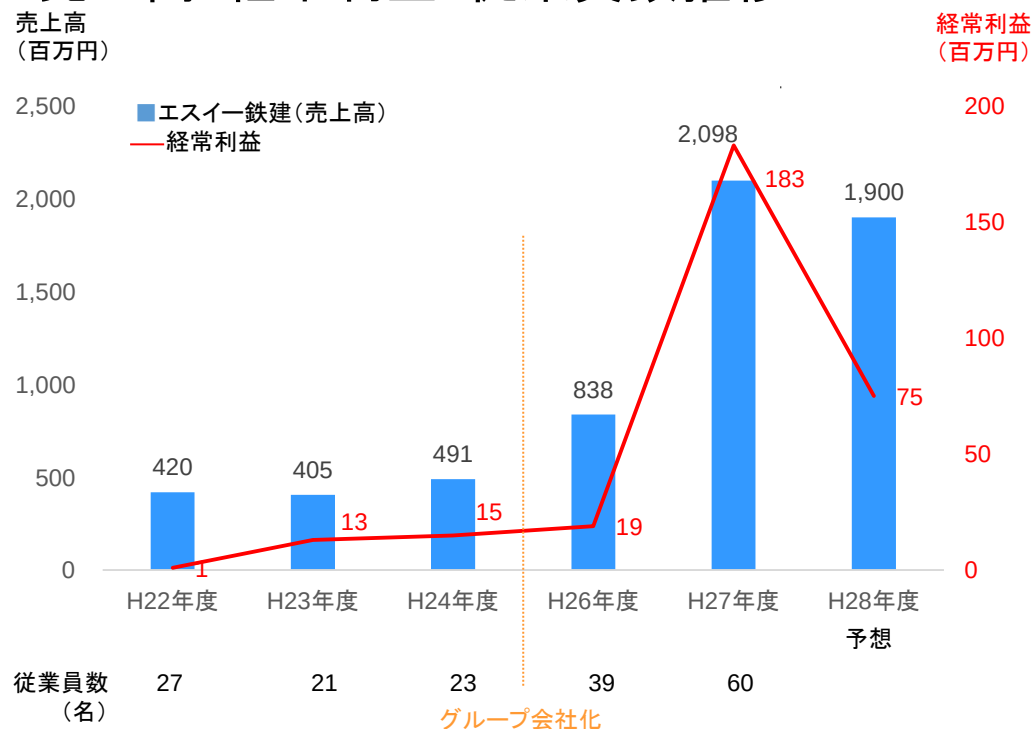


● 事業内容: 建設用資機材の製造・販売事業

【鉄鋼構造物加工業】

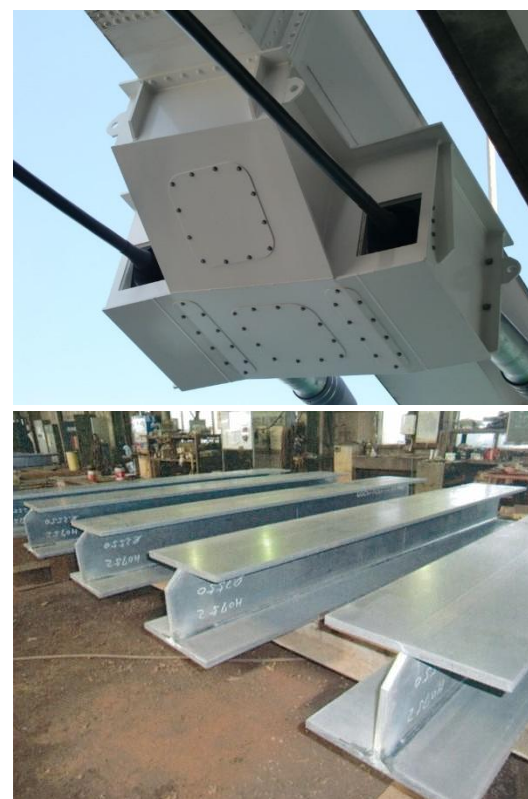
- ・H形鋼曲げ加工（H鋼曲製品、ビルトH、等）
- ・土木製品（橋梁耐震部材、等）
- ・建築製品（梁、柱、耐震金物、等）
- ・その他製品（パレット・ラック製品、各種タンク製作、等）

● 売上高・経常利益・従業員数推移



※H25年度においては、決算期変更に伴う4ヶ月決算につき、割愛しております。

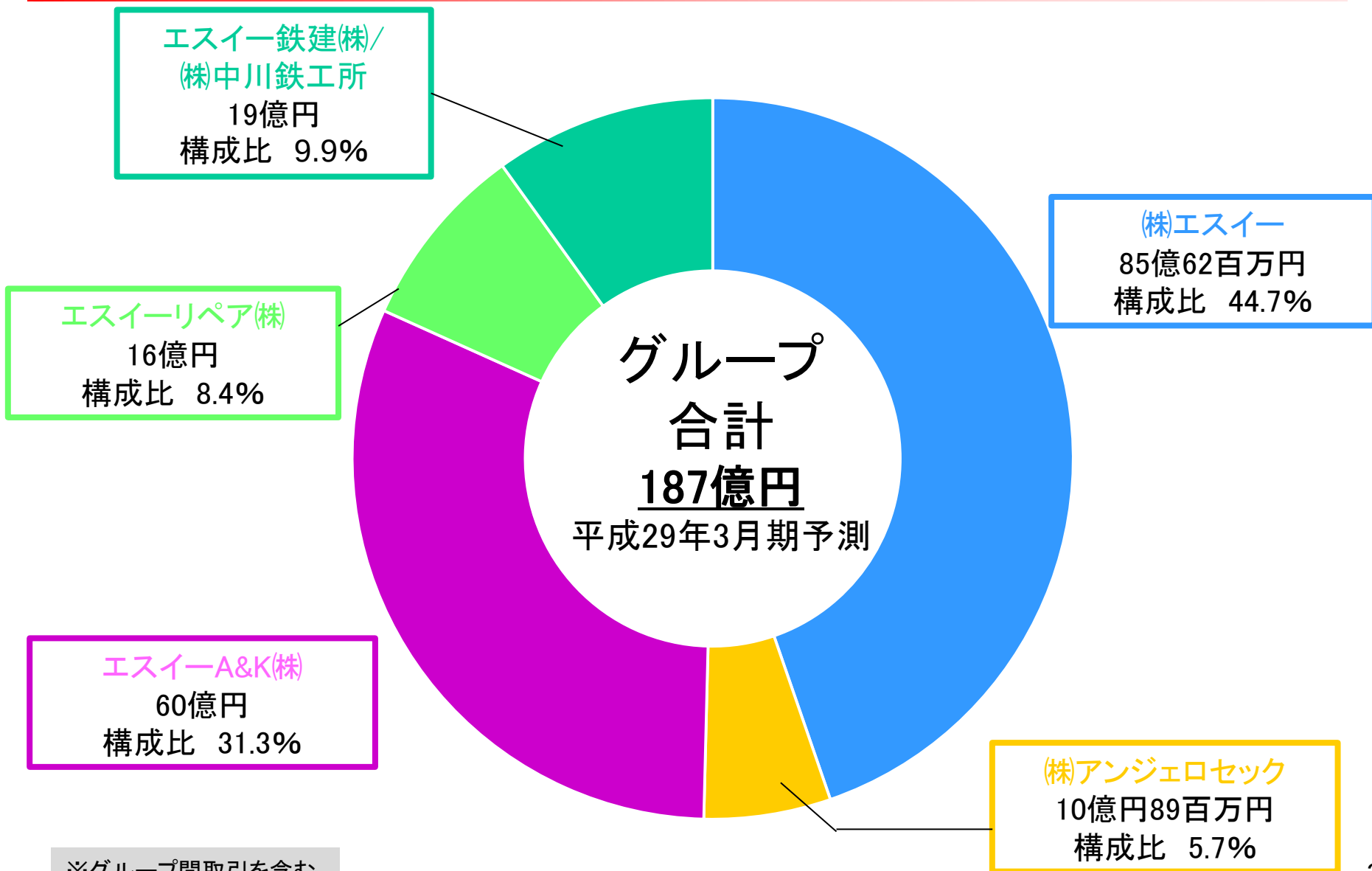
● 主な製品



エスイーグループ 会社別売上高・構成比(予測)



株式会社 エスイー





III. エスイーグループの今後の戦略

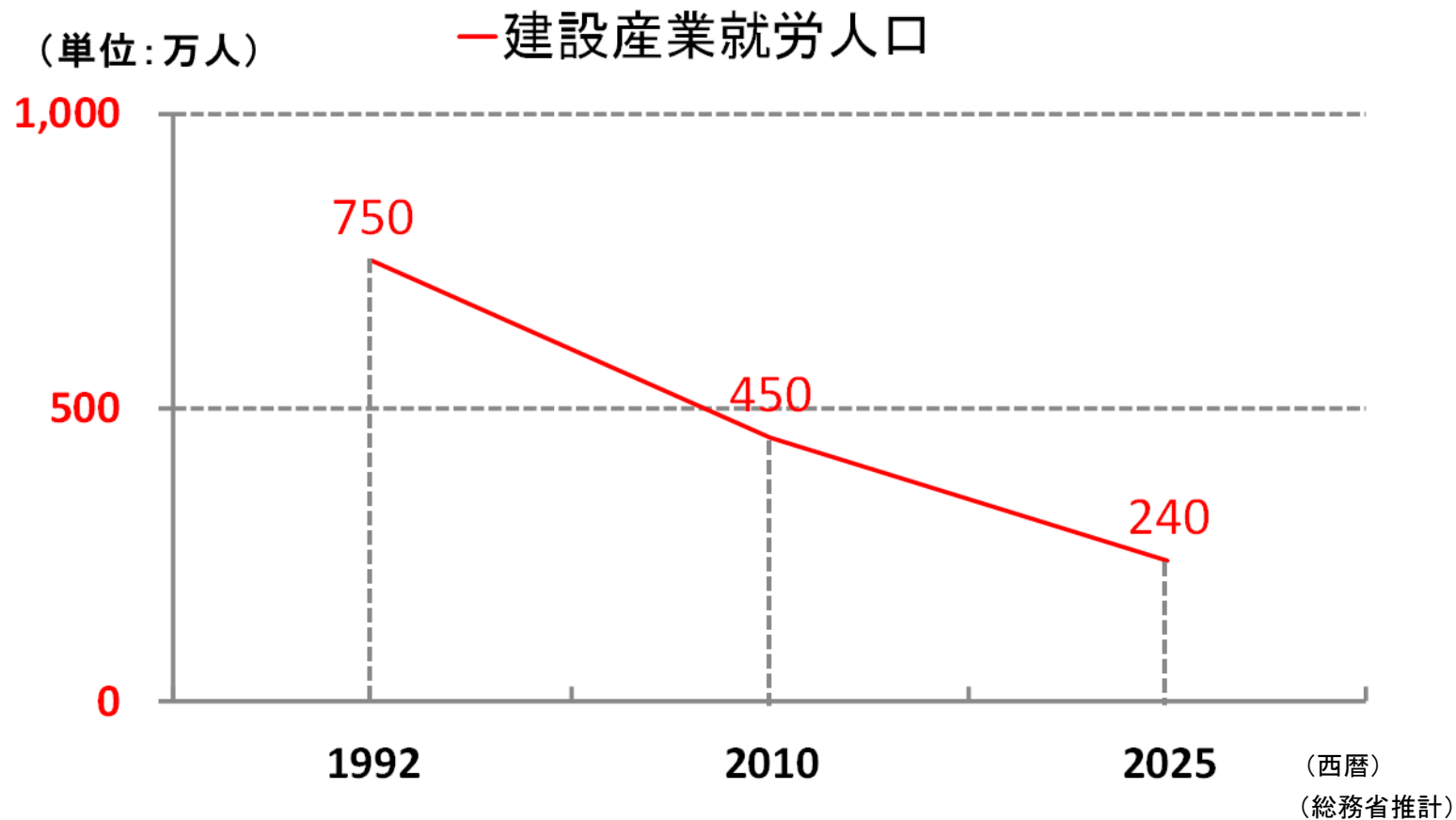
短期（継続）

- ・少子高齢化と緊縮財政のため、国内建設市場の縮小と成熟化
- ・今年度、建設投資は微減（前年度比△0.8%）
- ・政府建設投資は2年連続の減少（今年度20兆4900億円予測）
- ・熟練工の高齢化と若手入職者の減少（求人は急増）：人材不足、労務費高騰
→建設分野の就労者は、1992年の約750万人から2010年には450万人へ減少
- ・2020年東京オリンピックに向けた首都圏の民間建設投資の増加と大都市への集中投資による地方投資の減少
- ・国土交通省のインフラ長寿命化政策（耐久目標期間100年）

中・長期

- ・1970年代に整備された社会インフラ（橋梁、トンネル、道路等）と、民間施設（ビル・病院・マンション等）の更新時期到来：老朽化対策
- ・2020年東京オリンピック後の政府建設投資・民間建設投資の不透明感
- ・国債発行残高の増加：国や地方自治体の財政圧迫（公共事業の縮小傾向）
平成27年度末公債残高 約 807兆円 見込み
→平成35年度末公債残高 約1,014兆円 見込み （財務省発表より）
- ・少子高齢化と労働人口の減少：国内市場の更なる縮小
- ・公共事業関連予算の逡減と社会保障費の増大

●建設産業就労人口の推移



① 緊急性の高い課題への対応：

既存事業の安定成長/成長事業の拡大

- ・社会インフラの老朽化対策、効率的な維持管理・更新
- ・地震や異常気象などに対する、防災・減災対策

② 中長期的な課題への対応：

3つの成長戦略

1. 停滞している公共事業の対策

→ 民間需要の拡大とM&Aによる新規事業

2. 社会インフラ長寿命化政策の要請(耐久目標100年)

→ 省力化、省人化、工期短縮を可能にするESCONコンクリートの必要性

3. 人口減少(少子高齢化)や地方過疎化による税収の減少と社会保障費の増大

→ 海外市場への展開 × PPP(公民連携)の推進

新規事業の 創造

- ・ 戦略的M&Aの推進
- ・ 超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の実用化とマーケティング
- ・ 海外事業展開とPPP(公民連携)

成長事業の 拡大

- ・ 建設コンサルタント事業
(アンジェロセック)
- ・ 補強・補修工事業
(エスイーリペア、ランドプラン)

既存事業の 安定成長

- ・ 建設用資機材の製造・販売事業
(エスイー、エスイー鉄建、
中川鉄工所)
- ・ 建築用資材の製造・販売事業
(エスイーA&K、エスイー鉄建、
中川鉄工所)

エスイーグループでは、
既存事業の安定成長/成長事業の拡大と
さらなる発展のため、3つの成長戦略に挑戦

既存事業の 安定成長

- ・ 建設用資機材の製造・販売事業
(エスイー、エスイー鉄建、
中川鉄工所)
- ・ 建築用資材の製造販売・事業
(エスイーA&K、エスイー鉄建、
中川鉄工所)

建設用資機材の製造・販売事業(エスイー、エスイー鉄建、中川鉄工所)

- ・ アンカー工法の応用分野拡大 砂防堰堤、海岸堤防、嵩上げ
- ・ 土木分野における耐震金物の受注拡大
- ・ インフラの大規模更新・補修補強事業の獲得

建築用資材の製造販売・事業(エスイーA&K、エスイー鉄建、中川鉄工所)

- ・ 首都圏を中心とした民間住宅/非住宅投資の、安定的な建設需要取込
- ・ 東北地区における復興再生需要の取込
- ・ 鉄骨・梁加工製品等の鉄骨工事(Mグレード)

成長事業の 拡大

- ・ 建設コンサルタント事業
(アンジェロセック)
- ・ 補修・補強工事業
(エスイーリペア、ランドプラン)

建設コンサルタント事業(アンジェロセック)

- ・ JICA技術協力プロジェクト ⇒ 相手国政府職員的能力向上
- ・ JICAプロジェクトにおいて中堅・若手技術者がプロジェクトの総括、副総括として参画
- ・ 提案能力/事業推進力の向上による、受注競争力の強化
- ・ 仏アンジェロップ社、ベトナムVJECによる、技術力向上と更なる国際化推進

補修・補強工事業(エスイーリペア、ランドプラン)

- ・ ESCONとエスイーリペアの新たな融合による独自工法の開発と提案
- ・ 営業力強化、安定顧客層の形成による、受注力の向上
- ・ 施工力の強化と施工品質の向上
- ・ 事業エリアの拡大とエンジニアの積極的採用

新規事業の創造

- ・ 戦略的M&Aの推進
- ・ 超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の実用化とマーケティング
- ・ 海外事業展開とPPP(公民連携)

戦略的M&Aの推進

- ・ 業際分野におけるM&Aを通じた、経営基盤の強化/事業拡大/スピードアップ

超高強度合成繊維補強コンクリート(ESCON)の実用化とマーケティング

- ・ 製品化ならびに製品ラインナップの拡充を推進、販売とマーケティング(拡販)を開始
- ・ ESCON協会を設立し、全国規模で会員企業を募集
- ・ ESCON協会による新分野・新応用技術の開発(土木、建築、一般分野)

海外事業展開とPPP(公民連携)

- ・ 現在展開しているベトナムへの進出日本企業との協業化、建設分野の現地化
- ・ ベトナムに加え、近隣諸国へとエリアを拡大
- ・ 神奈川県三浦市 下水処理案件(PPP公民連携)で実現可能性調査受注



【新規事業の創造】 戦略的M&Aの推進

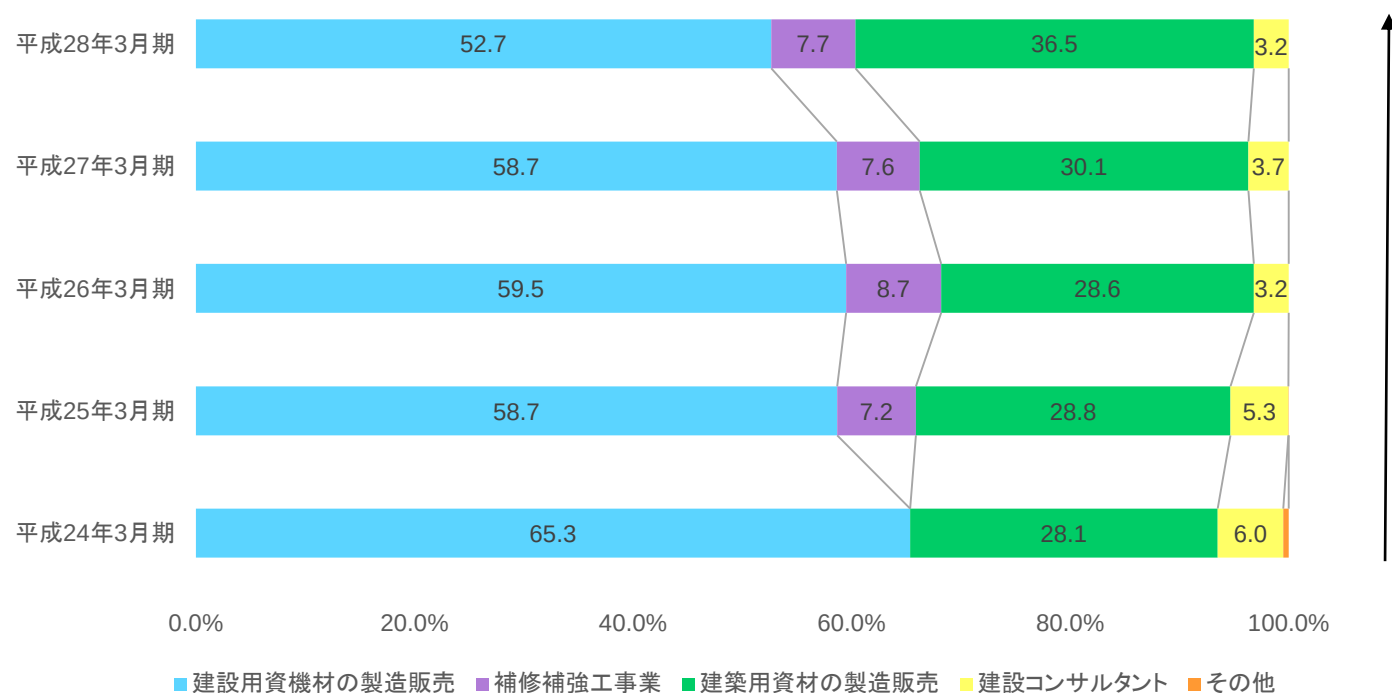
●エスイーグループにおけるM&A実績

- | | |
|----------|---|
| 平成21年4月 | 朝日興業株式会社（現・エスイーA&K株式会社）の株式取得
（子会社化） |
| 平成22年1月 | 株式会社キョウエイ（現・エスイーA&K株式会社）の株式取得
（子会社化） |
| 平成24年5月 | 株式会社仲田建設（現・エスイーリペア株式会社）の株式取得
（子会社化） |
| 平成26年4月 | 鉄建工業株式会社（現・エスイー鉄建株式会社）の株式取得
（子会社化） |
| 平成27年4月 | 株式会社森田工産（現・エスイー鉄建株式会社）の株式取得
（子会社化） |
| 平成27年12月 | 株式会社中川鉄工所の株式取得
（子会社化） |

これからも業際分野を中心としたM&Aによる事業拡大と経営基盤強化を推進

●M&Aによるセグメント別売上構成比の推移

公共事業費の増減に業績が左右される建設用資機材の製造・販売から、民間需要に依存する建築用資材の製造・販売へ事業モデルをシフト



【新規事業の創造】

- ① 研究開発
- ② ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート)
実用化とマーケティング
- ③ ESCON_γ Nite (放射能汚染物質への対応)

● 環境防災分野

・湾岸施設におけるグラウンドアンカーに関する研究

東日本大震災以降、沿岸施設の補強対策が急務

また、昨年12月、防波堤に関してガイドラインが一部改訂され、今後も継続的に補強対策が必須

今後の需要拡大の備えて、グラウンドアンカーによる湾岸施設と防波堤の補強効果を検証し、他工法との差別化を図る



②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 実用化とマーケティング

● コンクリート構造物の劣化原因

凍害



< RC 橋脚 >

塩害



< RC 桁 >



< PC 桁 >

道路橋の経年疲労



< RC 床版 >



②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 実用化とマーケティング

●「ESCON」とは

- ・圧縮強度、曲げ引張強度が一般的なコンクリートより高い
- ・鋼材を使用しないため腐食せず、また高い靱性からひび割れにも強く、コンクリート系構造物の長寿命化が図れる

● 開発の背景

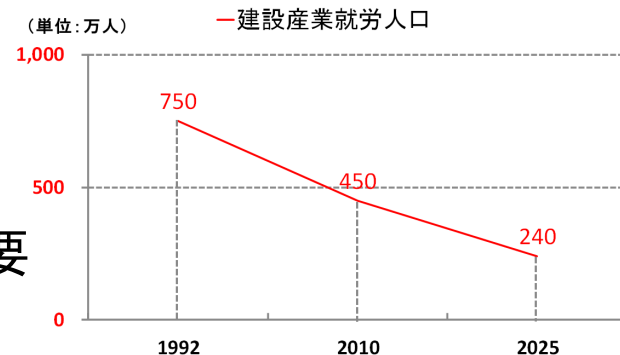
・労務者の人材不足、熟練工の激減

：現場作業の負担低減と製品の品質確保が必要
⇒ 省力化、省人化、工期短縮

・南海トラフや首都直下型などの発生リスク

：大規模地震に対する構造物の耐震化対策が急務

⇒ 財政状況の逼迫による耐震化対策費の低減に対応



○高強度コンクリートの使用により構造部材の軽量化が可能

○腐食劣化しないコンクリートの使用により耐久性が向上し、
構造物の長寿命化および維持管理費・更新費の大幅な削減が可能

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 実用化とマーケティング

● ESCONの特徴

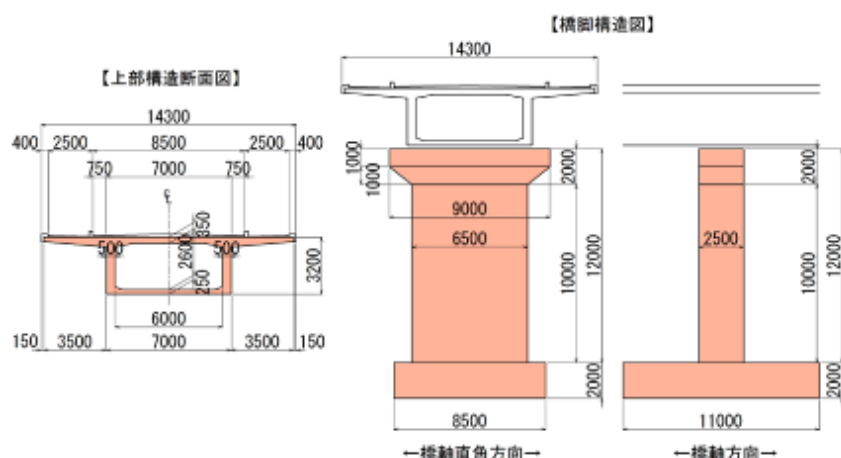
- 圧縮強度が極めて高い: 150N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約4~5倍)
- 曲げ引張強度が極めて高い: 20N/mm^2 以上 (普通コンクリートの約7~10倍)
- 凍害抵抗性が極めて高い ⇒ 寒冷地の構造物への適用に有効
- 塩分浸透性が極めて低く、ほとんどゼロである
⇒ 沿岸地域、凍結防止材散布地域の構造物への適用に有効
- 透水性が極めて低く、ほとんどゼロである ⇒ 水理構造物に有効
- 極めて中性化しにくく、透気性がほとんどゼロである
⇒ 二酸化炭素濃度の高い環境にある構造物への適用に有効
- 流動性が高く、自己充填性を有する ⇒ 薄い部材や複雑な形状への適用に有効
- 耐摩耗性・耐衝撃性が高い ⇒ 滑走路や水理構造物への適用に有効

上記の特徴を活かし、
『誰でも、いつでも、どこでも簡単に使えるコンクリート』の提供が可能

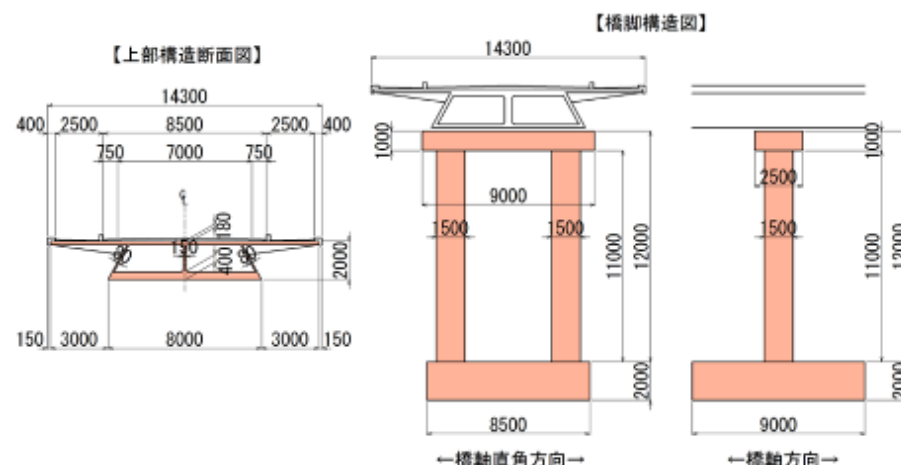
②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 実用化とマーケティング

●将来構想:ESCONを用いた道路橋の試設計の結果

【従来の橋梁:PC箱桁】



【ESCON仕様橋梁】



上・下部工の総重量:約40%低減
上・下部工の工事費:約20%低減
施工期間:約50%低減

② ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 実用化とマーケティング

● ESCON: 製品化ならびに製品ラインナップ拡充を推進

橋梁構造分野



ESCONスラブ
(道路橋用床版)



中・小規模
橋梁への適用



柱部材への
適用

環境防災分野

ESCON保護ブロック(耐磨耗パネル)



ESCON受圧板
(グラウンドアンカー用)



ESCONパネル
(ロックボルト用)



その他分野

ESCONデッキ(覆工板)



ESCONカバープレート
(漁港岸壁アンカー用)



上記の他、海洋構造物や建築分野、放射線遮断容器等、
応用分野への用途拡大を検討

→ マーケティング(拡販)と製品ラインナップ拡充を開始

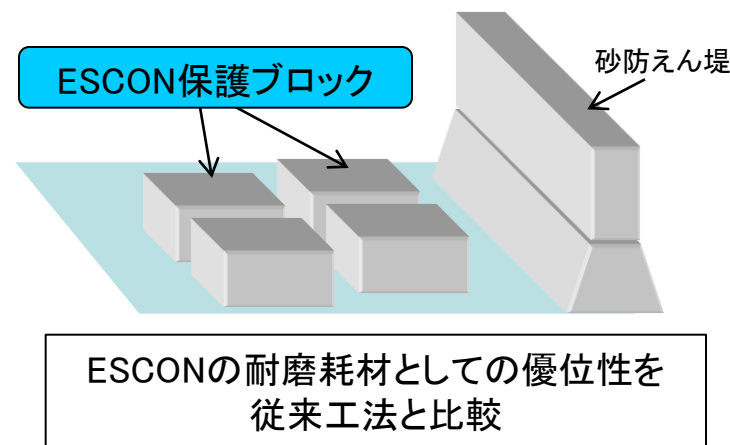
②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 実用化とマーケティング

● 試験施工の実施: ESCON保護ブロックを砂防えん堤に設置 定期的に性能計測



砂防えん堤(試験施工現場)

国交省管内の砂防えん堤護床工にて
現場実証試験を実施(期間:5年)
現在実施中。



試験データを蓄積し、
早期の製品実用化および技術的な認証取得を推進

SEC 株式会社 イスイー

②ESCON(超高強度合成繊維補強コンクリート) 実用化とマーケティング

●採用実績事例

ESCON受圧板(グラウンドアンカー用)

【特徴】

従来のコンクリート製受圧板に対して1/2～1/3程度軽量となるアンカー用受圧板。
鋼製受圧板の使用が控えられている地域・発注者をメインターゲットとします。

◇土木研究センターでの載荷試験

◇埼玉県秩父市 67基 納入済 (施工現場)



●ESCONy Nite[®] (ガンマ線遮蔽材料)を開発中

◇y Nite(ガンマナイト)とは (特許出願中)

y Niteは、ガンマ線を遮蔽する厚さ8cmのESCONを用いた合成コンクリート材です。ガンマ線の遮蔽材料として代表的な鉛は高い遮蔽能力を有しますが、価格が高く、使用する上では、環境汚染や鉛中毒などの深刻な健康被害に留意する必要があります。また、鉄は鉛に次いで遮蔽能力が高いですが、腐食に対する懸念があります。

ESCONy Niteは、鉄に近い遮蔽能力を有し、耐久性の高い超高強度合成繊維補強コンクリートを使用しており遮蔽能力、耐久性、価格等のバランスが取れた優れた遮蔽材料といえます。

◇ESCONy Niteの応用例

ESCONy NiteBox(放射性廃棄物保管容器)

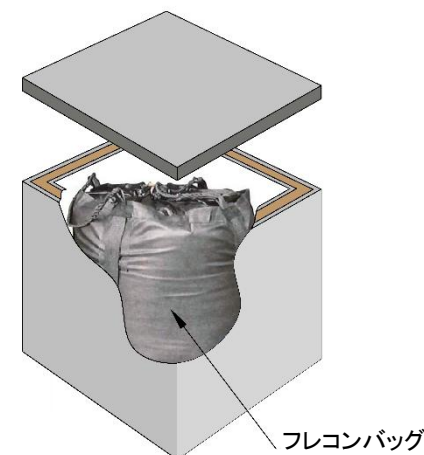
yNiteを用いた、放射性遮蔽容器yNiteBOXは普通コンクリート製の容器と比べその厚みを薄くすることができます。yNiteBOXは、ESCONを使用しているため、水に対する耐浸透性や耐凍結融解性、耐薬品性に優れ廃棄物の長期保存に適します。

ESCONy NiteBox 放射能汚染物質の貯蔵に最適

廃炉になった原子力発電所から発生する放射能汚染物質を長期間安全に貯蔵できます。

放射能汚染物質の中間貯蔵箱

ESCON y Nite BOX

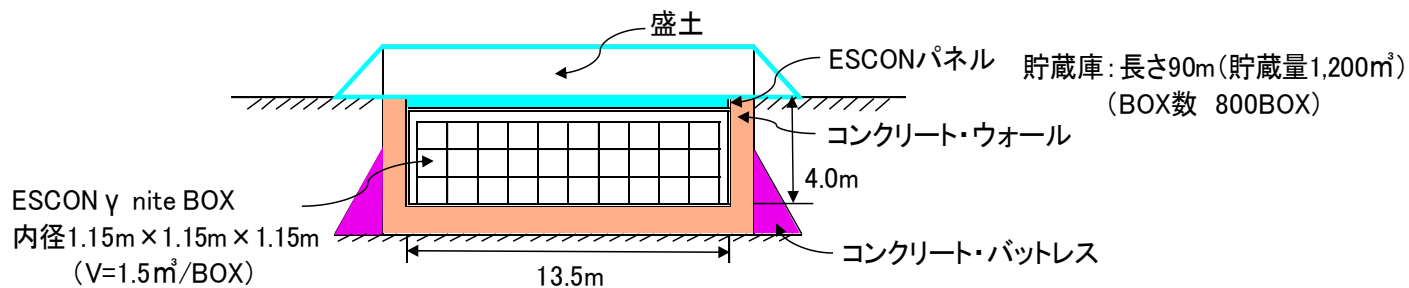


③ESCON γ Nite(放射能汚染物質への対応)

～ESCON γ Nite BOX の試供品～



～ESCON γ Nite BOXによる放射性廃棄物の貯蔵イメージ図～





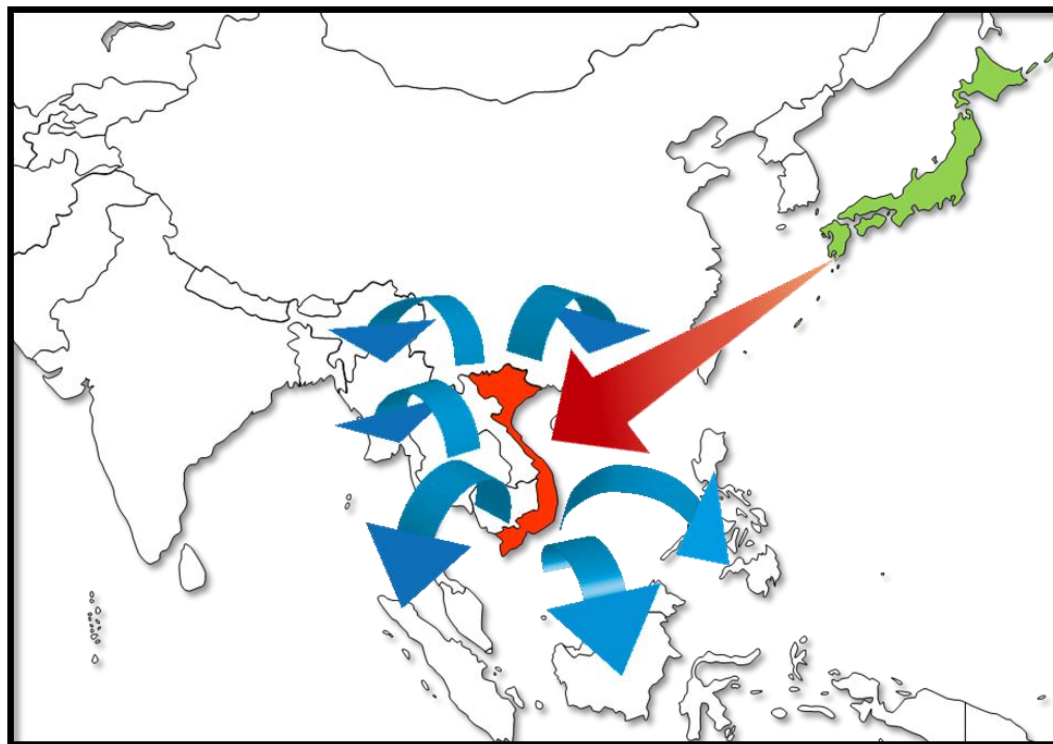
【新規事業の創造】 海外事業展開

●海外事業展開(ベトナム)への積極的な取り組み

- | | |
|-------|--|
| 2007年 | ベトナムでの事業展開を目的として、
ベトナム国立建設大学(NUCE)附属機関と
(有)日越建設コンサルタント(VJEC)設立 |
| 2010年 | ベトナムにおける大規模国策事業である、
ハノイーハイフォン間高速道路(全長105キロ)施工監理業務を受注 |
| 2012年 | ハイフォンーハロン間バックダン橋プロジェクトを
PPP(公民連携)にてベトナム・クアンニン省に提案、
その事業化を推進 |
| 2014年 | JICA(独立行政法人国際協力機構)より、
「ベトナム国 技術普及案件化調査案件」を受注 |
| 2015年 | バックダン橋プロジェクト投資許可受領。事業開始 |
| 2016年 | JICAより「ベトナム国道路法対策技術の普及実証事業
(グラウンドアンカー工法)」に採択 |

引き続き、ベトナム市場の開発、
新規プロジェクト創出と具体化を推進

●ベトナムから近隣諸国への拡大



当社製品の啓蒙活動

技術移転/人材交流

将来的な生産/販売拠点設置

現地企業とのタイアップ



事業可能性を模索

ベトナムでの事業展開に加え、中・長期を見据え、
その他東南アジア地域等における事業展開を創出

ナイル架橋建設工事プロジェクト

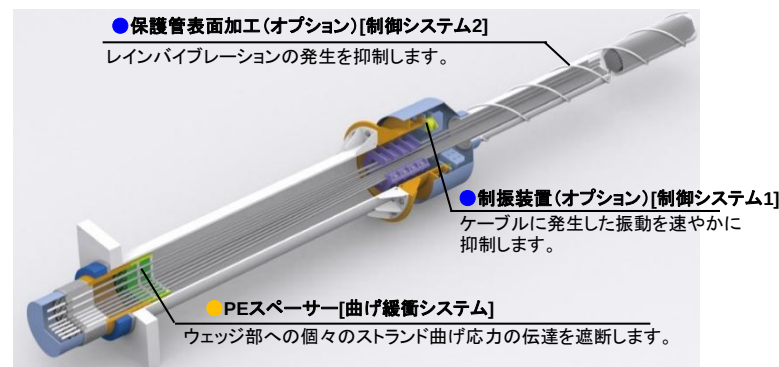
●日本政府の円借款(有償資金協力)によるウガンダ共和国 ジンジャ県における「ナイル架橋建設工事」への斜材ケーブル業務を受注

資材供給、スーパーバイザー派遣、機材リースを通じて当社の技術を総合的に提供

ナイル架橋建設事業は、ビクトリア湖から流れるナイル川の源流付近に東アフリカ初の斜張橋を建設するものであり、本斜張橋の整備により、東アフリカ地域各国の農業・産業振興や貿易・投資の拡大が期待されるとともに、ウガンダ北部回廊の輸送能力増強、安全な渡河ルート確保にも貢献することができます。

●FUT-H型斜材ケーブルを提供

斜材ケーブルは現場組立型であり、それに伴う施工計画から架設指導、品質管理において本プロジェクトに参加(当社参加期間(予定): 2016年冬~2018年春)



一般財団法人土木研究センター建設技術審査証明取得(建技審証第0906号)

発注者	ウガンダ国家道路公社 Uganda National Roads Authority
工事名称	ナイル架橋建設事業(ジンジャ) Construction of a New Bridge Across River Nile at Jinja
所在地	ウガンダ共和国ジンジャ県
工期(予定)	2014年1月~2017年12月(約4年)
設計監理	株式会社オリエンタルコンサルタンツ・株式会社エイト日本技術開発・PEC JV
施工	銭高組・現代建設JV



●アンジェロセックの新たな事業展開

アンジェロセックは、海外事業展開により、受注物件の確保ならび継続受注物件の活動を行っています。

昨年度は、カンボジア第7次地雷除去活動機材整備計画」、「パプアニューギニア国道路整備能力強化プロジェクト(2年次)」、「モルデューブ・パラオ地域におけるプロジェクト案件形成及びMRV体制構築」等を完工致しました。

今後も、アジア・アフリカ諸国のプロジェクトを中心に海外事業を推進してまいります。



＜カンボジア 地雷除去活動＞

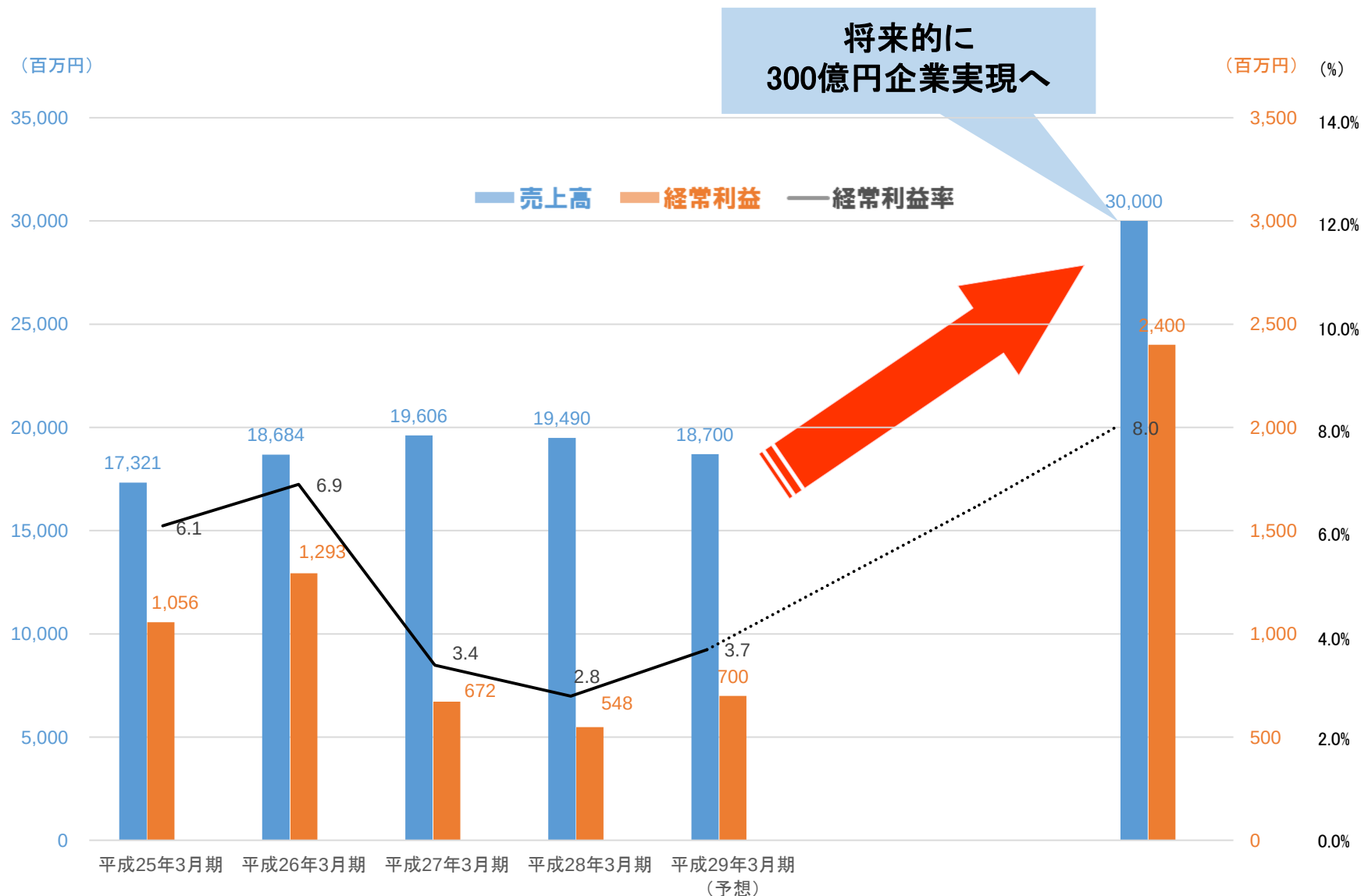


＜パプアニューギニア 道路整備プロジェクト＞



エスイーグループ売上／利益目標

●中期300億円化戦略



将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものでもありません。

本資料に記載されている当社の業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。したがって、これらの業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

Globality Engineering Maker

 株式会社 エスイー